2023年度　事業報告書

学校法人　東洋学園

目次

1 学校法人の概要
(1) 建学の精神 …1
(2) 設置する学校、学部・学科 …1
(3) 沿革 …2
(4) 組織図 …3
(5) 設置する学校、学部、学科の入学定員、入学者数等の状況 …4
(6) 役員（理事・監事）、評議員 …5
(7) 教職員数等 …7
2 事業の概要
・中期計画の実行～100周年に向けて、選ばれる大学に …8
・学部・学科の概要 …8
・教育関連活動 …9
・施設・設備の拡充等 …10
・認証評価への対応 …10
・英語教育・国際交流の充実 …11
・学生支援 …13
・入学試験関連 …16
・卒業・終了の状況 …16
・社会連携・社会貢献 …16

2024年5月31日

2023年度　事　業　報　告　書

1. 学校法人の概要

ガッコウホウジン　トウヨウガクエン
【学校法人名】　学校法人　東洋学園
（大臣認可年月日　昭和26年2月24日）

【主たる事務所】　東京都文京区本郷1丁目26番3号

(1)建学の精神　自彊不息

本学の建学の精神として継承されてきた「自彊不息（じきょうやまず）」は、創立者・宇田尚が生涯を通して学生に伝え続けた、学びや人生の基本姿勢を表している。中国に伝わる易経の文言で、その意味は「自ら弛まず努力を続ける」ということ。大正時代、良妻賢母を良しとしていた社会通念を否定し、女性の歯科医師養成に励んだ宇田は、学生が信頼される専門家になり、自立し、自律した人間になることを求め、そのための指針として掲げたのが「自彊不息」である。時が過ぎ、社会の在り方や学校の形態は変わっても、建学の精神は不変である。「日々の努力を怠らず学びに励むことで成長し、社会を変えていく人間になってほしい」という願いを込めて、「自彊不息」を受け継いでいる。

(2)設置する学校、学部・学科

設置する学校

フリガナ 学校名 （大学本部の位置）	学部・学科等名 （所在地）	開設年度	2023 入学定員	2023 編入学定員	2023 収容定員	2023年5月1日現在の学生数	2024 入学定員	2024 編入学定員	2024 収容定員	2024年5月1日現在の学生数	備考
トウヨウガクエンダイガク 東洋学園大学 東京都文京区本郷一丁目26番3号	現代経営学部 （東京都文京区本郷一丁目26番3号）	年度	名	名	名	名	名	名	名	名	
	現代経営学科	H 14	245	35	960	887	245	35	990	818	2023年度入学定員変更 （215人→245人）
	人間科学部 （東京都文京区本郷一丁目26番3号）										
	人間科学科	H 14	200	20	840	812	200	20	840	765	
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部 （東京都文京区本郷一丁目26番3号）										
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	H 25	110	10	490	425	110	10	480	361	2023年度入学定員変更 （120人→110人）
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	H 25	100	10	480	322	100	10	460	248	2023年度入学定員変更 （120人→100人）
	東洋学園大学大学院 （東京都文京区本郷一丁目26番3号）										
	現代経営研究科　現代経営専攻	H 20	10	－	20	7	10	－	20	7	
	東洋学園大学　計		665	75	2,790	2,453	665	75	2,790	2,199	

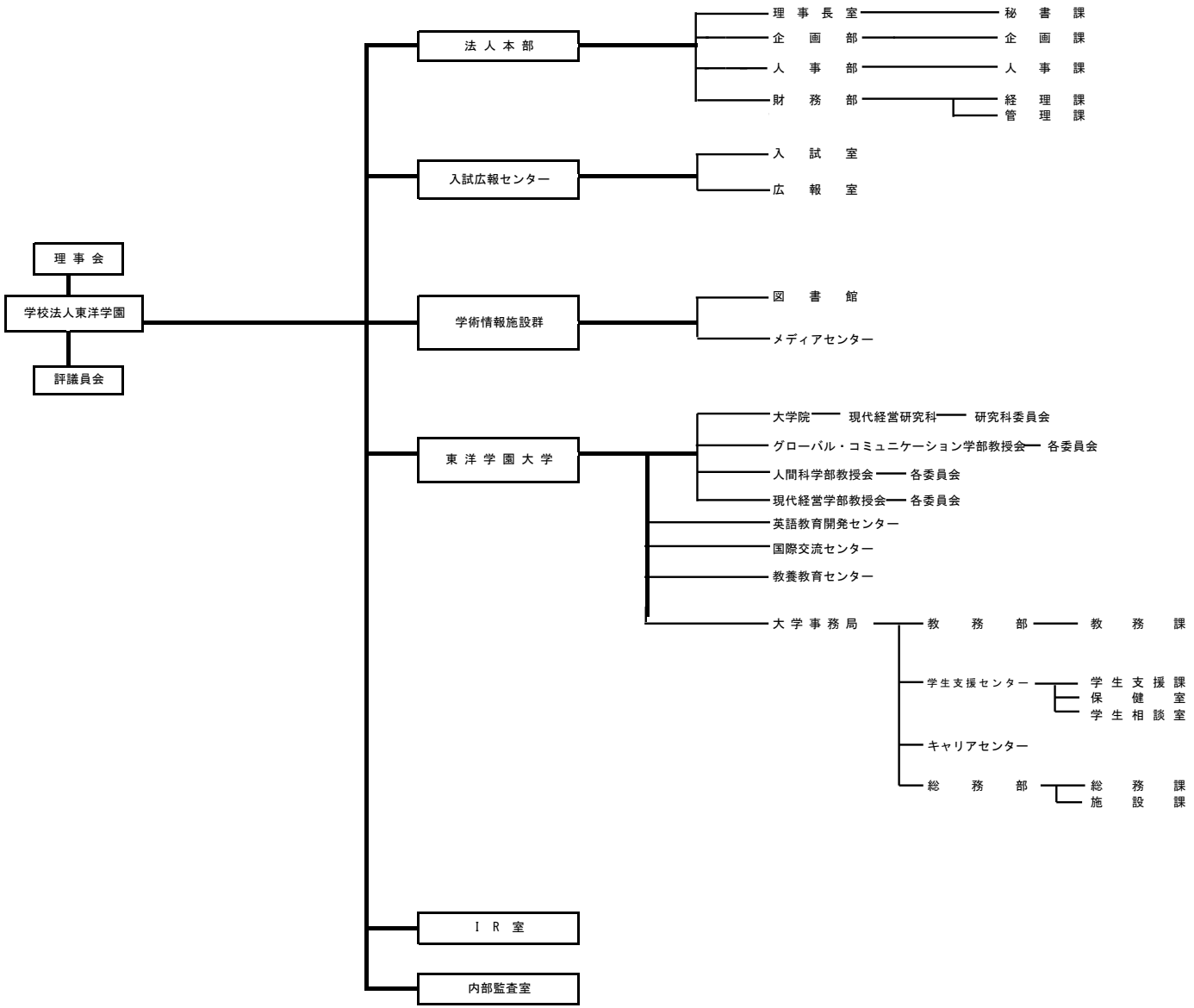
(3) 沿革

学校法人東洋学園は自彊不息(じきょうやまず)の精神を建学の理念に掲げ、女性の自立のため歯科医師を養成する東洋女子歯科医学専門学校(旧制)として1926(大正15)年に建学し、以来90余年の歴史を有します。戦禍で施設を焼失した後は東洋女子短期大学として再発足し、英語教育に力を入れてきました。1992(平成4)年から男女共学の四年制大学となり、グローバル化が進む現代にあって時代の変化に対応できる力を身につけ、世界の発展に貢献できる人材の育成を使命としています。

大正6(1917)年	9月	前身・明華女子歯科医学講習所開校(翌年、歯科医学校に改組)
大正10(1921)年	12月	専門学校令による明華女子歯科医学専門学校に改組(女子初)
大正15(1926)年	11月	東洋女子歯科医学専門学校、文部大臣指定校(女子初)として創立
昭和3(1928)年	8月	ドイツ近代復興様式の校舎・寮竣工
昭和16(1941)年	5月	全て女性による歯科医学学術大会を挙行
昭和20(1945)年	4月	第二次世界大戦の空襲により施設を焼失
昭和21(1946)年	5月	千葉県津田沼町(現習志野市)の仮校舎に移転
昭和22(1947)年	4月	第1回歯科医師国家試験、合格率全国2位の成績
	5月	学制改革により女子歯科医専の廃止決定
	9月	旧制・東洋高等学校(理科乙類＝医学部予科)開校
昭和23(1948)年	11月	本郷校舎復旧
昭和25(1950)年	3月	東洋女子歯科医専第25回生、東洋高等学校第1回生卒業(最終)
	5月	新制・東洋女子短期大学(英語科)開学、英語科教員養成を開始
昭和36(1961)年	2月	本郷旧1～3号館第1期工事竣工建築家・今井兼次による「フェニックス・モザイク」完成
昭和39(1964)年	4月	コース制を設定、LL施設本格稼動開始
昭和42(1967)年	9月	千葉県流山市に流山キャンパス開設
昭和48(1973)年	4月	学科名称を英文科に変更、専攻科を設置
昭和53(1978)年	4月	学科名称を英語英文科に変更
昭和57(1982)年	4月	流山キャンパスに英米総合研究を骨子とする欧米文化学科を開設
平成4(1992)年	4月	東洋学園大学(人文学部英米地域研究学科・英米言語学科)開学
平成7(1995)年	4月	短大専攻科、学位授与機構認定となる
平成12(2000)年	4月	大学人文学部コミュニケーション学科開設
平成14(2002)年	4月	大学人文学部人間科学科、現代経営学部現代経営学科開設
平成16(2004)年	4月	大学人文学部、既存3学科を再編し国際コミュニケーション学科開設
平成18(2006)年	3月	東洋女子短期大学第55回生卒業(最終)
平成19(2007)年	3月	本郷新1号館竣工
平成20(2008)年	4月	東洋学園大学大学院　現代経営研究科現代経営専攻開設
平成25(2013)年	4月	人文学部をグローバル・コミュニケーション学部、人間科学部に再編
平成26(2014)年	4月	就学キャンパスを学部別に再編
	4月	国際キャリアプログラム(ICP)開始
平成28(2016)年	4月	就学キャンパスを本郷に統合
	11月	創立90周年
令和4(2022)年	4月	東洋学園大学開学30周年

（2024年3月31日現在）

（４）組織図



(5)設置する学校、学部、学科の入学定員、入学者数等の状況

学校名	学部・学科名	2024年度									平均入学定員超過率 下段:推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段:推薦入学	入定充足率 下段:推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部　現代経営学科	245名	379名	368名	347名	187名 *103名*	0.76 *0.42*	990名	826名	0.83	0.94 *0.69*
	人間科学部　人間科学科	200名	281名	279名	271名	179名 *116名*	0.90 *0.58*	840名	768名	0.91	0.97 *0.75*
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	110名	108名	105名	105名	58名 *30名*	0.53 *0.27*	480名	364名	0.76	0.76 *0.60*
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	100名	66名	65名	64名	46名 *34名*	0.46 *0.34*	460名	249名	0.54	0.54 *0.41*
	東洋学園大学大学院　現代経営研究科　現代経営専攻	10名	9名	9名	6名	4名 *1名*	0.40 *0.10*	20名	7名	0.35	0.35 *0.03*

学校名	学部・学科名	2023年度									平均入学定員超過率 下段:推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段:推薦入学	入定充足率 下段:推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部　現代経営学科	245名	630名	610名	563名	251名 *204名*	1.02 *0.83*	960名	887名	0.92	1.01 *0.72*
	人間科学部　人間科学科	200名	404名	396名	368名	208名 *183名*	1.04 *0.92*	840名	812名	0.97	1.02 *0.79*
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	110名	158名	156名	152名	94名 *88名*	0.85 *0.80*	490名	425名	0.87	0.88 *0.70*
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	100名	102名	97名	84名	44名 *41名*	0.44 *0.41*	480名	322名	0.67	0.67 *0.47*
	東洋学園大学大学院　現代経営研究科　現代経営専攻	10名	6名	6名	2名	1名 *0名*	0.10 *0.00*	20名	7名	0.35	0.48 *0.00*

学校名	学部・学科名	2022年度									平均入学定員超過率 下段:推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段:推薦入学	入定充足率 下段:推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部　現代経営学科	215名	674名	644名	550名	231名 *178名*	1.07 *0.83*	930名	865名	0.93	1.02 *0.67*
	人間科学部　人間科学科	200名	446名	433名	390名	188名 *149名*	0.94 *0.75*	840名	815名	0.97	1.02 *0.78*
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	120名	223名	213名	205名	78名 *62名*	0.65 *0.52*	500名	457名	0.91	0.93 *0.69*
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	120名	178名	171名	155名	63名 *43名*	0.53 *0.36*	500名	402名	0.80	0.83 *0.56*
	東洋学園大学大学院　現代経営研究科　現代経営専攻	10名	2名	2名	2名	2名 *0名*	0.20 *0.00*	20名	9名	0.45	0.55 *0.00*

学校名	学部・学科名	2021年度									平均入学定員超過率 下段:推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段:推薦入学	入定充足率 下段:推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部　現代経営学科	215名	1025名	973名	478名	196名 *145名*	0.91 *0.67*	930名	850名	0.91	1.03 *0.66*
	人間科学部　人間科学科	200名	580名	563名	381名	197名 *149名*	0.99 *0.75*	840名	832名	0.99	1.07 *0.84*
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	120名	371名	363名	268名	119名 *97名*	0.99 *0.81*	500名	472名	0.94	1.03 *0.73*
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	120名	321名	309名	225名	90名 *62名*	0.75 *0.52*	500名	467名	0.93	1.00 *0.72*
	東洋学園大学大学院　現代経営研究科　現代経営専攻	10名	9名	9名	8名	7名 *0名*	0.70 *0.00*	20名	14名	0.70	0.63 *0.00*

※ 下段は、推薦入学(内数)。
※ 平均入学定員超過率は当該年度を含めた4年間の状況。
※ 人数等は、各年度5月1日現在の状況。
※ 小数点第3位四捨五入

(6)役員(理事・監事)、評議員

〈2023年度理事・監事〉

理事・監事の区別	職名又は担当職務	フリガナ 氏　　名	常勤・非常勤の区別	選任区分等	
				号	選任区分
理　事	理事長	ｱｲﾁ　ﾀﾛｳ 愛知　太郎	常勤	2	評議員
理　事	常任理事	ﾂｼﾞﾅｶ　ﾕﾀｶ 辻中　豊	常勤	1	学　長
理　事	理　事	ｶﾜｶﾐ　ﾉﾌﾞｱｷ 川上　伸昭	非常勤	2	評議員
理　事	理　事	ﾌｼﾞﾏｷ　ﾀｹｼ 藤巻　健史	非常勤	2	同　上
理　事	理　事	ﾄﾀﾞ　ﾅｵｺ 戸田　直子	非常勤	2	同　上
理　事	理　事	ﾏｴﾀﾞ　ﾏｻﾌﾐ 前田　正史	非常勤	3	学識経験者
理　事	常任理事	ｸｽﾉｷ　ﾉﾌﾞｱｷ 楠　誠晃	常勤	3	同　上
理　事	理　事	ｾｶﾞﾜ　ｺｳﾍｲ 瀬川　浩平	非常勤	3	同　上
監　事	監　事	ﾐﾉｳﾗ　ﾘｭｳｲﾁ 箕浦　龍一	非常勤	7	理事会選任
監　事	監　事	ｵｵﾊｼ　ﾖｳｽｹ 大橋　洋介	非常勤	7	同　上

(2024年3月末日現在)

理事長			選任条項	5-2　理事の互選
	(定数)	(現員)	(任期)	6-1-1　学長　(定数1名)
理　事	8名	8名	4年 (1号除く)	6-1-2　評議員(評議員会選任)　(定数4名) 6-1-3　学識経験者(理事会選任)　(定数3名)
監　事	2名	2名	4年	7　監事(理事長選任)　(定数2名)

〈2023年度評議員〉

フ リ ガ ナ 氏　　名	選任区分等		備考
	号	選任区分	
ﾂｼﾞﾅｶ ﾕﾀｶ 辻中 豊	1	学 長	兼理事
ｱｲﾁ ﾀﾛｳ 愛知 太郎	2	法人職員	兼理事長
ﾀｶｵ ﾀｶﾕｷ 高尾 享幸	2	同 上	
ｱﾍﾞ ﾊｼﾞﾒ 阿部 一	2	同 上	
ｳﾀﾞ ﾀｶｵ 宇田 隆生	2	同 上	
ﾄﾀﾞ ﾅｵｺ 戸田 直子	3	同窓生	兼理事
ﾄﾐﾂﾞｶ ﾋｻｺ 富塚 比咲子	3	同 上	
ｳﾁﾀﾞ ﾐﾖｺ 打田 美代子	3	同 上	
ﾀﾅﾍﾞ ｴｲｲﾁ 田邊 栄一	4	学識経験者	
ｶﾜｶﾐ ﾉﾌﾞｱｷ 川上 伸昭	4	同 上	兼理事
ﾀﾅｶ ｲﾜｵ 田中 巖	4	同 上	
ﾏｴﾀﾞ ﾏｻﾌﾐ 前田 正史	4	同 上	兼理事
ｸｽﾉｷ ﾉﾌﾞｱｷ 楠 誠晃	4	同 上	兼理事
ﾌｼﾞﾏｷ ﾀｹｼ 藤巻 健史	4	同 上	兼理事
ﾖｼﾀｹ ﾋﾛﾐﾁ 吉武 博通	4	同 上	
ｾｶﾞﾜ ｺｳﾍｲ 瀬川 浩平	4	同 上	兼理事
ﾀｶｼﾏ ﾊﾂﾋｻ 髙島 肇久	4	同 上	

（2024年3月末日現在）

評議員	（定数）（現員）（任期） 17名　17名　4年 （1号除く）	選任条項	21-1-1　学長（定数1名） 21-1-2　法人職員（理事会選任）（定数4名） 21-1-3　同窓生（理事会選任）（定数3名） 21-1-4　学識経験者（評議員会選任）（定数9名）

(7)教職員数等

［教育職員］

	2023年5月1日現在 東洋学園大学 学　長 辻中 豊						2024年5月1日現在 東洋学園大学 学　長 辻中 豊					
	学長・副学長	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・コミュニケーション学部	人間科学部	現代経営学部	その他	大学合計	学長・副学長	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・コミュニケーション学部	人間科学部	現代経営学部	その他	大学合計
学　長	1名					1名	1名					1名
副学長	0名					0名	1名					1名
教　授		12名	12名	10名		34名		13名	12名	9名		34名
准教授		7名	4名	7名		18名		6名	4名	8名		18名
専任講師		6名	2名	6名	2名	16名		6名	3名	5名	1名	15名
助教		1名	1名	0名		2名		1名	1名	0名		2名
専任合計	1名	26名	19名	23名	2名	71名	2名	26名	20名	22名	1名	71名
兼任講師	0名	42名	45名	50名	0名	137名	0名	33名	43名	45名	0名	121名

［事務職員、嘱託職員、現業・技術職員］

	2023年 5月1日現在	2024年 5月1日現在
事務職員・嘱託職員	72名	78名
技術職員・現業職員	0名	0名
合　計	72名	78名

２．事業の概要

【中期計画の実行～100 周年に向けて、選ばれる大学に】

「100 周年に向けて、選ばれる大学に」を掲げ、「1.教育理念の明確化」「2.切れ目のない教育支援」「3.充実の学生生活支援」「4.グローバル化と地域連携の推進」「5.キャリアサポート・就職支援体制の強化」「6.財政基盤の安定とガバナンスの強化」「7.退学防止への取組」の７つの項目をマスタープランとしている。中期計画の４年目に着手すべき事項として 54 項目の実行計画を策定し進めてきた。2023 年度の実行計画の達成率は 85%（昨年度 85%）であった。

【学部・学科の概要】

〈グローバル・コミュニケーション学部〉

グローバル・コミュニケーション学科（入学定員110名　3年次編入学定員10名）

グローバルな現代世界の諸課題について幅広く学び、その解決の助けとなるような考えやアイデアを発信できるようになることを目標としている。日本を含むアジアの文化・社会についても学ぶことで、グローバル世界の課題に向き合い、その解決につながるような新しい価値を生み出すことのできる人材を育成することを目指し、2年次ゼミである複数の「専門基礎演習」を履修する中で専門分野の視野を広げ、3・4年次に開設されるゼミ（専門応用演習・卒業研究演習）を中心とした各科目修得へとつなげるよう運営した。

英語コミュニケーション学科（入学定員100名　3年次編入学定員10名）

グローバル世界の第一共通語としての英語について文化・社会的な面から学ぶとともに、仕事で英語を使いこなせるようになることを目的としている。英語圏の文化について幅広く学びつつ、効果的な学習法を通じて実践的な英語力を身につけることで、グローバルビジネスの世界で活躍できる人材や、英語教員・日本語教員としてのキャリアを築くことのできる人材を育成することを目指し、「英語コミュニケーション」「英語圏社会」「英語圏文学・文化」「英語学」「英語・日本語教育」という5つのフィールドを中心とした多彩な専門科目を揃えて運営した。また、教職課程が配置されており、履修により、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）を取得できる。

〈人間科学部〉

人間科学科（入学定員200名　3年次編入学定員20名）

「心」「身体」「社会」についての科学である「人間科学」を多角的かつ総合的に学び、「人を支える人」として社会に貢献できる人材を育てることを目標としている。

幅広い教養と実践的な英語運用能力を活かして、「心」「身体」「社会」についての多角的・総合的な知識をもとに、グローバル社会の多様な人々を支援できる能力を身につけている学生を育成するために以下の3コース体制で運営した。

・心理・カウンセリングコース
・スポーツ健康コース
・人間社会コース

〈現代経営学部〉

現代経営学科（入学定員245名　3年次編入学定員35名）

ビジネスコミュニケーションに必要な語学力と教養に加え、経営学・経済学・マーケティングの理論及び応用を学ぶことにより、課題発見力・行動力・他の人々と協働する力を修得させ、社会の持続的発展に貢献する人材を輩出することを目的としている。2023年度入学生より以下の3領域6コース体制で運営した。

（経営学領域）
・ビジネスリーダーコース
・ベンチャー・事業承継コース

（経済学領域）
・会計・ファイナンスコース
・政策・エコノミクスコース

（マーケティング領域）
・メディア・マーケティングコース
・消費者心理・サービスマーケティングコース

〈大学院現代経営研究科〉

現代経営専攻（修士課程　入学定員10名）

既設の現代経営学部現代経営学科を基礎として、学部段階における教養教育とこれに裏打ちされた専門的素養を基礎として、経営学分野を中心とした専門性の一層の向上を図ることにより、社会の多様な要請に応えることのできる幅広く深い学識と研究能力に加えて、高度の専門的な職業等を担うために必要な卓越した能力を備えた人材を育成することを目的としている。

【教育関連活動】

〇在学生・卒業生サービスの充実

証明書データの電子化を完了させたことを踏まえ、「証明書コンビニ発行・オンライン決済サービス」の運用を 2023 年 10 月 25 日から開始し、発行まで数日を要していた成績証明

書や卒業証明書は即日発行することが可能となった。これにより在学生・卒業生サービス及び業務の省力化に取り組んだ。

○認証評価対応

単位の実質化に向けた今までの取り組み（単位上限や履修中止期間の見直しやシラバスフォームの改編など）の検証作業やカリキュラム改編に伴うカリキュラムツリー及びマップの更新を行った。また、退学防止の為、1 年次春学期成績不良者のケアと 2 年次の追跡調査を行った。

○対面授業拡大への取組

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が 2023 年 5 月に 2 類から「5 類感染症」へ移行したことを受け、感染防止対策として行ってきた大学全体の授業方針を見直し、基本的に対面授業を行うこととした。ただし、教育効果の側面から有用と判断された場合には一部オンラインでの授業も実施した。

【施設・設備の拡充等】

○１号館

・11 階体育館床を修復した。

・2 階の保健室内を改修し、カウンセリング室を新設した。

・5 階食堂の食券券売機に電子マネー決済を可能とした。

・7 階 1700 特別講師室を会議室に仕様変更した。

○1.4 号館

・女子トイレ 3 箇所に無料配布生理用ナプキンのディスペンサーを設置した。

○4.5 号館

・2026 年度の 100 周年記念に向けた改修工事を計画する事になった。

○東洋学園大学グラウンド

・照明柱に鳥害対策工事を行った。

【認証評価への対応】

自己点検・評価において、認証評価を踏まえた改善・向上の取組を推進してきた。2024 年度に公益財団法人大学基準協会で第３期認証評価を受審するため、各種資料を作成し提出した。

【英語教育・国際交流の充実】

○長期留学制度

	申請条件	奨学金
国際交流センター特別留学	GPA3.3~、TOEIC500~	50 万円/年
本学/JSAF 協定校留学	GPA3.0~、TOEIC450~	奨学金 30 万円/年
認定留学	GPA2.5~、TOEIC350~	なし

本制度利用時：①授業料減免、②単位認定があり、③在籍期間とすることによって 4 年間での卒業が可能となる。2023 年度の制度利用者は半年間 4 名、1 年間 4 名の計 8 名（アメリカ、アイルランド、カナダ、韓国、オーストラリア）だった。

その他に、休学して海外での経験を積みたい学生に奨励金 20 万円/年を支給する「海外経験休学サポート制度」の実施を開始した。2023 年度利用者は 2 名だった。

○短期留学

夏季にイギリス、韓国、カンボジア

春季にカナダ、中国、ニュージーランド

上記のプログラムを実施した。参加者は夏期 32 名、春期 21 名、語学力のレベルアップや国際体験の育成に寄与した。ニュージーランド研修は本年度は単位付与はせず、体験のみだったが、寄付による本学からの費用支援があったこともあり、23 名の応募があった（6 名選抜）。

○ISA（Independent Study Abroad）海外自主研修プログラム

本学が選定した 3 つのエージェントが実施するプログラムに学生が個人で参加する。時期や期間、留学する国など学生の選択の幅が広がる。一定の条件をクリアすると単位認定（2 単位）が可能である。

○Collaborative Online International Learning（COIL）

アメリカの協定校サム・ヒューストン州立大学（SHSU）の学生とオンラインで「なぜ結婚するのか？社会的・経済的分析」をテーマに共同プロジェクトを行なった。それぞれ事前研修を行い、合同講義でアイスブレーク、ZOOM セッションを行なった。

○国際交流イベントと国際キャリア開発プロジェクト

留学先各国について知るイベントや留学経験を就活、将来のキャリア構築にどのように活用するか「Future Me」など多様なプログラムを行った。また Social Media Intern として SNS への投稿やイベント情報発信を学生が行ない、協働することでコミュニティ意識を育んだ。

○各国紹介イベント

台湾、フィリピン、ニュージーランドなどの国をテーマにそれぞれの国の文化を紹介するイベントをグローバル・ラウンジにて行なった。台湾については台湾義守大学の学生による発表会、本学学生との交流を行った。

Future Me

・「韓国留学から学んでいること」
在学生による講演。オンラインで韓国での留学体験全般、将来についてなどを語ってもらった。

・「Vision Board Workshop」インターン主催のワークショップ。「あなたの未来のビジョンはなんですか」をテーマに参加者と各自持ち寄った写真等を使用してビジョンボードを作成した。

・「中国イベント」
本学卒業生をゲストに迎え、学生たちに向けて「鑑真杯と中国留学を経て」をテーマに講演。本学の留学支援制度の活用法や、留学の特色、留学で得たことなど、自身の留学経験について紹介してもらった。

○SHSU in Togaku

アメリカの協定校サム・ヒューストン州立大学（SHSU）の教員1名、引率2名、学生14名が本学でサマースクールを2週間行った。日本文化紹介イベント、歓送迎会等を通じ本学学生（延べ参加者200名以上）と親交を深めた。

○「鑑真杯」中国語スピーチコンテスト

4年ぶりに「第11回鑑真杯中国語スピーチコンテスト」開催。中国語の力を磨き、日中両国の相互理解と友好を深めることを目的として開催される学内のスピーチコンテスト。「暗唱・朗読部門」と「スピーチ部門」に合わせて16名の学生が出場し、日頃の中国語の学習成果を披露した。

○国際キャリアプログラム（International Career Program）

1年間の留学が必須のプログラム。秋学期に4名が出発した。留学先は次の通り。

・セントクラウド州立大学（アメリカ）
・ノースアラバマ大学（アメリカ）

○インターン

2023年6月より1名、9月より1名、計2名のインターンを新規雇用した。インターンは授業補助やラウンジ・タイムの運営、イベント開催等に積極的に関わり、学生の英語教

育の充実に寄与した。

○VEL（Virtual English Lounge）/Lounge Time

授業期間中の平日昼休み（12：15～12：50）にZoom上でVEL、対面でLounge Timeをを開催し、英語話者の教員、インターンが学生とフリートークを行った。またカルチャーイベント、クリスマスイベントなどの行事を各学期3回ずつ実施し、学生に生きた英語に触れる機会を提供した。

○ALPS(Academic Learning & Professional Skills：英語特別選抜クラス)

ALPSクラスは、全学部の2～4年生を対象にした英語の特別選抜クラスであり、履修が認められた学生は、ビジネスおよび学術的な目的（論文執筆、留学、大学院進学など）のために必要とされる英語のスキルをみがく。授業は週2回行われ、毎回の課題も多いが、意欲的な学生は高い英語力とソフトスキルを身につけることができる。学年末には発表会を開催し、人物学業ともに優秀で他学生の模範となった学生2名にセンター長賞を授与し、プログラムを完了した学生にはALPS修了証を授与した。

○高大連携

我孫子二階堂高校より出張ラウンジ・タイムの依頼があり、2月に2回、特別講師およびインターン、訪問担当職員が高校を訪問し、高校生に対してラウンジ・タイムを行った。

○外国人留学生

2023年業務の部署移行により、外国人留学生の管理（毎週の在籍確認、各種奨学金の紹介、手続き）をしている。留学生同士の交流を目的とした新入留学生を歓迎『餃子パーティー』を企画開催した。

○海外からの大学訪問

アメリカのトロイ大学、台湾のISU大学、カナダのカルガリー大学、オーストラリアのメルボルンにあるビクトリア大学、ベトナムのダナンにあるFPT大学など。これらの訪問者とは今後の留学生派遣、受入と将来の協力体制の構築について検討した。

【学生支援】

学生支援センターは2019年度より、学生支援課、保健室、学生相談室で構成される新たな学生支援部門として発足し、2023年度で5年目となり、その体制は学内に定着しつつある。この3部署は様々な場面において連携、協働しており、学生には「学生支援センター

利用ガイド」を配付し、本センターの利用促進を図っている。

2023 年度においては、5 月の新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取扱い変更に伴い、学内における感染症対応も変更されたが、概ね問題なく対処した。

学生支援課は、学生生活の総合支援窓口として、日々の学生生活の支援を行っている。今年度は、新型コロナウイルスの感染症対策を徐々に縮小しながら、新入生の入学事務手続き、各学年の春学期、秋学期オリエンテーション等の学内行事を対面にて実施した。

学生行事についても対面実施を基本とし、学生総会、体育祭（春学期・秋学期）等、すべての学生行事を対面で実施。クラブ会員勧誘については、対面勧誘のほか、学内に各学生団体の PR ポスターをパネル展示するなどして、各学生団体が新入生獲得を目指した。また学生会の中心的役割を担う学生会運営部の学生とともに、新規のイベントを企画・立案・実行するなどし、新入生の学生団体加入促進を図った結果、加入率は昨年度を上回った。フェニックス祭（学園祭）については、2019 年度以来の 2 日間ともに対面で開催し、大きなトラブルもなく無事に終了した。

各クラブの日々の活動については、学生自らが感染防止対策を考え活動することを基本に、自覚ある活動を促すとともに、対面活動に支障のないよう申請手続き等については、丁寧に対応、支援した。

2022 年 4 月に文京学院大学と課外活動における「文京学院大学と東洋学園大学との課外活動等における相互交流に関する協定書」を締結し、学生会活動、あるいは学生団体単位での交流において、両大学の学生支援担当部署も連携し、交流機会を設けることとなり、2023 年度も学生団体間の交流機会を設けた。本学体育祭に文京学院大学の学生が参加するなど、交流の幅は広がりつつある。

奨学金関連では日本学生支援機構奨学金、国が所管する高等教育の修学支援新制度のほか、2020 年度に新設したコロナ禍における経済的な学生支援である本学独自の支援策、学びの奨学金（学部生 40 万円、院生 30 万円の給付）の募集、修学環境支援としてノート PC の貸出を行ってきたが、社会経済活動の再開に伴い応募人数も減少傾向にあることから、2023 年度においては学びの奨学金は募集せず、従来の東洋学園奨学金採用枠を拡大する形で経済的支援を実施した。ノート PC の貸与については、2023 年度も継続実施したが、学生のニーズ減少に伴い当年度で終了した。

また、2022 年度に本学同窓会独自の在学生向け給付型奨学金制度「東洋学園大学同窓会奨学金」が新設され、2023 年度も実施した。その募集、手続きは学生支援課が担い、選考は学生支援委員会で行った。

修学支援に関しては、本学の修学支援制度に基づき、支援対象者は申請者だけでなく支援が必要と思われる学生についても対象とし、学生相談室、保健室から修学支援制度を説明し申請を促し学生支援課へつなぐなど、各部署担当職員が綿密に連携し速やかに支援を行った。

また、障がい学生支援に関して、支援体制の整備を行うにあたり、2022 年度に障がい学生支援に関する諸規程を策定し、2023 年度はその規程に基づき支援を行い、滞りなく対応した。

保健室は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取扱い変更に伴い、学内手続き等について漏れなく学生に周知した結果、手続き変更等における混乱を事前に回避することができた。また、学生の日々の健康維持・増進に関わる保健指導や健康相談、定期健康診断の実施、健康診断証明書の発行、体調不良や病気・ケガ等の応急処置等を行い、学生の健康や安全への配慮に努めた。

健康診断は、事前の感染予防行動の奨励等を学生に促すとともに、学内における感染防止対策を施し、計画通り 4 月初めのオリエンテーション期間に実施し、約 88%の受診率を確保できた。

学生相談室は、大学への適応や人間関係、進路、心の不調など、あらゆる事柄について相談を受け付け、また保護者・教職員と連携・協働することを通して、学生がより充実した生活を送れるように支援した。通年を通し開室し、様々な困りごとを抱えた学生に寄り添いながら、昨年度に引き続いて心の変調・不調等の解消に取り組んだ。

学生相談室の利用状況は年々増加しており、日々2 名の体制で相談を受け付け、漏れなく対応できるよう努めている。相談増加要因の一つとして、3 月下旬の新入生事務手続きにおいて、UPI(University Personality Inventory)等を用いた健康調査を実施し、4 月以降、高得点者等を対象に入学後の早期に呼出面談を開始して、学生とつながることができたことが挙げられる。なお、修学上の影響が大きいと感じられる学生の場合、本人の了承を得て呼出面談の内容をクラス担任へと連絡し、教員の学生指導に役立ててもらえるように情報共有した。

また、2022 年度の新たな取り組みとして実施した「こころの健康相談（精神科相談)」を 2023 年度も継続して実施。学生が学内で精神科医と相談できることにより、精神医学的な立場からの助言を受けられる。また教職員に対して、精神障害や発達障害のある学生対応に関してコンサルテーションを行った。

個別の相談以外には、年間を通してグループ活動を実施した。2023 年度は、学生同士が交流できる場の提供やものづくりの活動、外部講師によるストレスケアを目的とした講座、地域の就労移行支援事業所と連携し、就労移行支援を利用して内定を得た先輩の話を聞く会など計 14 回を行い、延べ 46 名が参加した。

2023 年 8 月には外部講師による部署内研修会を開催し、相談室・保健室・学生支援課のスタッフが参加。その後の学生支援対応および連携体制等に活かしている。

【入学試験関連】

「学校推薦型選抜公募制」小論文方式について各学部で検討がなされ、2022 年度まで選考日に課題提示、筆記していた小論文を、現代経営学部は課題事前提示、当日筆記、人間科学部では事前提出、グローバル・コミュニケーション学部では口頭試問方式へと変更した。この変更により、総合型選抜の受験者数が昨年度比 159%と増加した。

一方で、学校推薦型選抜、一般選抜では 18 歳人口の減少などの影響もあり、全体的には前年度の出願者数、入学者数を下回る結果となったが、一般選抜では手続き率においては改善され、2023 年度 12.4%→2024 年度 15.5%と手続き率が上昇した。これは 2024 年度より一般選抜で導入した、寮費を減免する「寮費減免制度」の導入が少なからず手続き率向上に貢献したものと思料する。

受験生サポートとして、小論文添削、プレゼンテーション入試チャレンジプログラム（ACCEPT）を実施した。個別に指導することで小論文、プレゼンテーションともそれらを利用した総合型選抜においてプログラム体験者の合格率はそれぞれ、98%、100%と好結果に繋がった。

【卒業・終了の状況】

グローバル・コミュニケーション学部 223 名、人間科学部 199 名、現代経営学部 214 名、現代経営研究科 3 名卒業生を輩出した。

【社会連携・社会貢献】

1、文京区との連携

○文京アカデミア講座

2023 年度は文京区と連携して文京アカデミア講座を 2 講座実施した。

【前期】「易しい英語で伝える文京区の魅力」（大村惠子教授/全 4 回）

【後期】「グループワークで学ぶ人間関係論」（塩谷隼平教授/全 4 回）

○文の京ロード・サポート「東洋学園大学クリーンキャンペーンチーム」

本郷一丁目 26 番～本郷二丁目 28 番における､道路の美化清掃を週 2 日継続して行った。

○公益財団法人文京アカデミーの「後援」の名義を取得

公開講座（リベラルアーツ）は「生涯学習都市・文京」の実現に寄与する講座として、公益財団法人文京アカデミーの「後援」の名義を取得し、2024 年度の公開講座から使用することとなった。

2、地域貢献

○文京区本郷台中学校職場体験

9 月に 3 日間文京区本郷台中学校 6 名の生徒を職場体験として受け入れた。

〇公開講座（リベラルアーツ）

5 月～8 月に計 7 回にわたる公開講座（リベラルアーツ）を講座料無料で対面およびオンラインで実施した。

〇現代経営研究会

10 月～12 月に計 6 回にわたる業界・企業の経営者を招いての講座を講座料無料で対面およびオンラインにて一般公開した。2023 年度テーマ：「価値のデザイン」

〇生涯学習講座

本郷キャンパスにて夏季講座（8 月）に 10 講座、2.3 月に春季講座 10 講座実施した。

以上